

ES/1 NEO

*MF*シリーズ *CS*シリーズ

Log Utility

使用者の手引き

第27版 2022年2月

©版權所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2022年

© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2022

**ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.**

“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM

目次

第 1 章 機能概要	1
1.1. ログ設定機能	2
第 2 章 起動と終了	3
2.1. 起動方法	3
2.2. 終了方法	4
第 3 章 ログ設定	5
3.1. ログ設定機能概要	5
3.2. 起動方法	5
3.3. ログ設定	7
第 4 章 ビューア	11
4.1. ビューア機能概要	11
4.2. 起動方法	11
4.3. ビューア	13
4.4. カスタムフィルタ設定	18
4.5. ログファイルのインポート	21
第 5 章 メール通知	22
5.1. メール通知機能概要	22
5.2. 起動方法	22
5.3. メール通知	24
5.4. ログのチェック	31
第 6 章 SNMP TRAP	35
6.1. SNMP TRAP 機能概要	35
6.2. 起動方法	35
6.3. SNMP TRAP	37
6.4. チェック実行	39
6.5. MIB ファイル	39
第 7 章 環境設定	40
7.1. メールのデフォルト送信先	40
7.2. SNMP 送信先	41
第 8 章 ログ情報出力レベルの設定	42
8.1. INI ファイルの記述	42

8.1.1. LOGSIZE.....	42
8.1.2. LOGLEVEL.....	43
8.1.3. EVENTLEVEL	43
8.2. 出力レベル.....	44
8.2.1. 情報レベル.....	44
8.2.2. 警告レベル.....	44
8.2.3. 停止レベル.....	44
8.2.4. 出力しない.....	44
8.3. リターンコード.....	45

第1章 機能概要

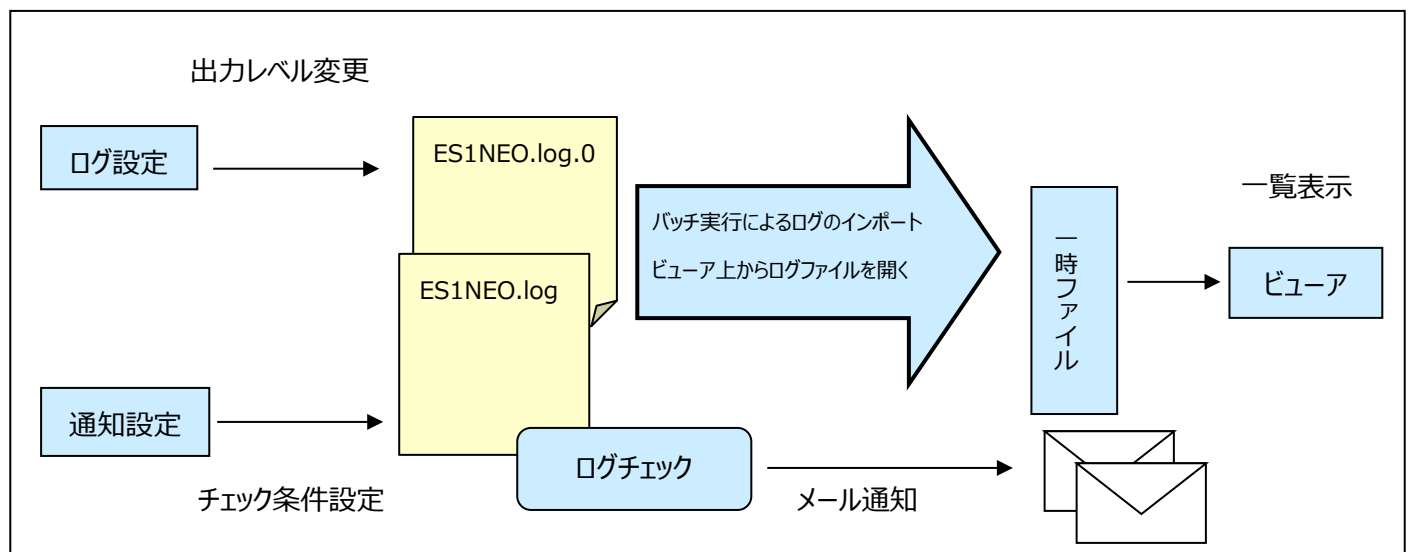
ES/1 NEO Log Utility は、ES/1 NEO CS シリーズ、ES/1 NEO MF シリーズ、または ES/1 NEO Performance HomePage、ES/1 NEO Performance Web Service で作成されるプログラムログを管理するためのプログラムです。

ログ設定機能は、ログファイルの出力場所の変更や、ファイル、イベントログ、メッセージボックスへの出力レベルの一括変更を行います。現在の設定値はプログラム毎にリストされているので、確認もまた容易です。

ビューア機能は、ログのメッセージを様々な角度から閲覧します。日付・時間等でのソート機能やプログラム名称等で表示するメッセージを絞り込むフィルター機能があります。例えば、特定のエラーを示すメッセージだけを一覧表示することができます。

通知設定機能は、日々のログを自動的にチェックします。チェック条件とチェック結果の宛て先を設定し、バッチ登録を行います。スケジュールに登録すれば、条件に一致するログ情報や、マシンのプロセス状況等がメールで自動通知されます。

ES/1 NEO Log Utility 運用イメージ



ビューア上でログを確認するには、高速にメッセージを選択する為の一時ファイルを作成する必要があります。一時ファイルは、バッチ実行によるログのインポート、またはビューア上からファイルを開くことで作成されます。スムーズなログ閲覧のため、バッチ実行によるログのインポートをお勧めします。

ES/1 NEO シリーズのバッチ運用の最後に、ログのインポート処理を実行していただきますと、常に最新のログがビューア上に展開されるようになります。

1.1. ログ設定機能

ログ設定機能はログファイルの設定、およびプログラム単位のログ出力レベルを設定します。この機能は、各プログラムが提供する「ログ情報出力設定」に置き換わるものです。インストールされているプログラムを自動で一覧表示(※1)し、ユーザは一覧から変更したい項目を選択します。ログ出力レベルを同時に変更できますので、各プログラムのログ出力レベルをまとめて更新する場合に特に適しています。

本機能から設定可能なプログラム一覧

プロダクト	プログラム	設定ファイル名
CS シリーズ	CS (CS-MAGIC、CS-ADVISOR、CS-Network ADVISOR、CS-REPORT)	Csconf.ini
CS シリーズ	Flatfile Maintenance	Ffmainte.ini
CS シリーズ	Flatfile Maintenance - データ管理	FFBackupEnv.ini
CS シリーズ	pdbmagic	pdbmagic.ini
CS シリーズ	pdbmagic2	pdbmagic2.ini
CS シリーズ	SAP magic	r3mgx.ini
CS シリーズ	udbmagic	udbmagic.ini
CS シリーズ	x2f	x2f.ini
CS シリーズ	Packet Monitor	wmonpost.ini
CS シリーズ	MIB Collector	mibcl.ini
CS シリーズ	HTTP Log Processor	log2f.ini
CS シリーズ	CS-Java	wascl.ini
CS シリーズ	CS-CONNECT	etcmgx.ini
CS シリーズ	CS-VMware (vmwmon)	vmwmon.ini
CS シリーズ	CS-VMware (vmwm4vc)	vmwm4vc.ini
CS シリーズ	CS-Hyper-V	hvmon.ini
CS シリーズ	CS-Virtage	vtgmon.ini
CS シリーズ	iim collect	iimcllct.ini
CS シリーズ	iim clock server	iimclksv.ini
CS シリーズ	CS-RMON ※2	rmonmgx.ini
CS シリーズ	ES/1 管理マシン ディスクチェック	es1chkdisk.ini
CS シリーズ	CS-Storage	stgmon.ini
CS シリーズ	CS-AWS	awsmon.ini
CS シリーズ	APM Collector ※2	apmcl.ini
MF シリーズ	Performance Navigator	Pnconfig.ini
MF シリーズ	ES/1 Web	es1webxc.ini
MF シリーズ	MF-CONNECT	pnetcmgx.ini
LOG	Log Utility	ES1PCLog.ini
PWS	Performance Web Service Uploader	pwsupconf.ini
PWS	Performance Web Service Maintenance	pwsmaint.ini

※1:プログラムでログをサポートしていないものは一覧表示されません。

※2:2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。

第2章 起動と終了

2.1. 起動方法

「スタート」メニュー→「プログラム」→「ES/1 NEO Log Utility」から「Log Utility」を選択します。



または ES/1 NEO Log Utility のインストールフォルダから「ES1PCLog.exe」を起動します。
起動すると、以下の「ES/1 NEO Log Utility」画面が表示されます。



2.2. 終了方法

「ES/1 NEO Log Utility」画面の[終了(X)]ボタンを押下、または「ファイル(F)」メニューの「終了(X)」を選択します。



第3章 ログ設定

プログラムのログ出力レベルを設定します。ログについての詳細は「第 8 章 ログ情報出力レベルの設定」をご参照ください。

3.1. ログ設定機能概要

ログ設定は、プログラムが出力するログに関する設定を行います。ログは、ファイル、イベントログを出力先として選択できます。プログラム個別に出力レベルを設定することも、インストールされているすべてのプログラムを一括して設定することも可能です。

<主な機能>

- ・ログファイル、イベントログ、メッセージ、それぞれの出力レベルの変更
- ・ログファイルの出力先の変更

3.2. 起動方法

「ES/1 NEO Log Utility」画面の[ログ設定(L)]ボタンを押下、または「機能(K)」メニューの「ログ設定(L)...」を選択します。



起動すると、以下の「ES/1 NEO Log Utility – ログ設定」画面が表示されます。

ES/1 NEO Log Utility – ログ設定

共通ログファイル

出力先(D)

C:\IIM_DATA\Log\ES1NEO.log

参照(B)...

ファイルサイズ上限(M)

4096

KB

すべてのプログラムを対象としたログファイルを作成します。

ネットワーク(N)...

個別ログファイル

☒ 個別ログファイルを出力する(A)
 プログラム毎にログファイルを作成します。出力先は各プログラムフォルダの直下です。

各プログラムのログ出力設定(L)

プログラム名	ログファイル	ファイルサイズ上限(KB)	イベントログ
CS(CS-MAGIC/CS-ADVISOR/CS-Netwo...	情報レベル	4096	NO 出力しない
Flatfile Maintenance	情報レベル	4096	NO 出力しない
pdbmagic	情報レベル	4096	NO 出力しない
pdbmagic2	情報レベル	4096	NO 出力しない
SAP magic	情報レベル	4096	NO 出力しない
udbmagic	情報レベル	4096	NO 出力しない
x2f	情報レベル	4096	NO 出力しない
Packet Monitor	情報レベル	4096	NO 出力しない
MIB Collector	情報レベル	4096	NO 出力しない
HTTP Log Processor	情報レベル	4096	NO 出力しない
CS-Java	情報レベル	4096	NO 出力しない
CS-CONNECT	情報レベル	4096	NO 出力しない
CS-TREND	情報レベル	4096	NO 出力しない
CS-VMware(vmwmon)	情報レベル	4096	NO 出力しない

設定を変更したいプログラムを選択して下さい。
[Ctrl]、または[Shift]キーを押下しながらクリックすると、同時に複数のプログラムを選択できます。
ログファイルが「出力しない」の場合、共通/個別ログファイルにログは出力されません。

変更(O)...

登録

キャンセル

3.3. ログ設定

「ES/1 NEO Log Utility – ログ設定」画面には、プログラム毎の出力レベルを示すリストと、ログファイルの出力先が表示されます。

ES/1 NEO Log Utility – ログ設定

共通ログファイル

出力先(D)

C:\IIM_DATA\Log\ES1NEO.log

参照(B)...

ファイルサイズ上限(M)

4096

KB

すべてのプログラムを対象としたログファイルを作成します。

ネットワーク(N)...

個別ログファイル

☒ 個別ログファイルを出力する(A)
 プログラム毎にログファイルを作成します。出力先は各プログラムフォルダの直下です。

各プログラムのログ出力設定(L)

プログラム名	ログファイル	ファイルサイズ上限(KB)	イベントログ
CS(CS-MAGIC/CS-ADVISOR/CS-Netwo...	情報レベル	4096	出力しない
Flatfile Maintenance	情報レベル	4096	出力しない
pdbmagic	情報レベル	4096	出力しない
pdbmagic2	情報レベル	4096	出力しない
SAP magic	情報レベル	4096	出力しない
udbmagic	情報レベル	4096	出力しない
x2f	情報レベル	4096	出力しない
Packet Monitor	情報レベル	4096	出力しない
MIB Collector	情報レベル	4096	出力しない
HTTP Log Processor	情報レベル	4096	出力しない
CS-Java	情報レベル	4096	出力しない
CS-CONNECT	情報レベル	4096	出力しない
CS-TREND	情報レベル	4096	出力しない
CS-VMware(vmwmon)	情報レベル	4096	出力しない

設定を変更したいプログラムを選択して下さい。
 [Ctrl]、または[Shift]キーを押下しながらクリックすると、同時に複数のプログラムを選択できます。
 ログファイルが「出力しない」の場合、共通/個別ログファイルにログは出力されません。

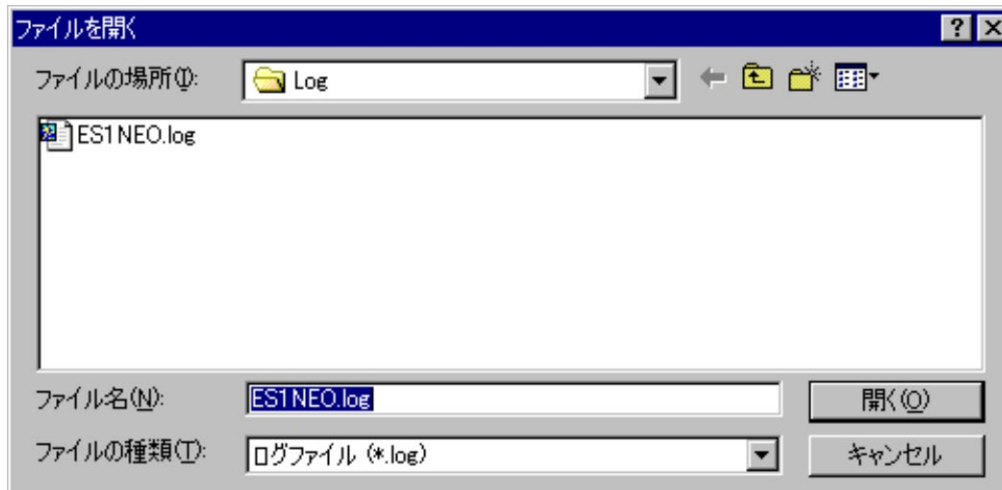
変更(O)...

登録

キャンセル

(1)出力先(D)

ログファイルを作成する場所を指定します。[参照(B)...]ボタンを押下すると、出力先を変更できます。出力先がネットワーク上の別のコンピュータである場合は、始めに[ネットワーク(N)...]ボタンを押下し、そのコンピュータに接続するための「ユーザー名」と「パスワード」を設定しておきます。



(2)ファイルサイズ上限(M)

ログファイルのサイズ上限を 1 から 10240 までの数字で指定します。単位は(KB)です。

メモ！

ビューア機能をご使用する場合は、サイズが小さいほど高速に動作します。また、ファイル出力先をローカルディスクに指定することで、更に高速になります。

(3)個別ログファイルを出力する(A)

「ログの出力先」に指定したファイルとは別に、プログラム個々のログファイルを出力する場合はチェックします。

プロダクト	プログラム	ログファイル名
CS シリーズ	CS-MAGIC	Cs.log
CS シリーズ	CS-ADVISOR、CS-Network ADVISOR	csadvcr.log、csadvcvh.log、csadvcvr.log
CS シリーズ	CS-REPORT	Csreport.log
CS シリーズ	Flatfile Maintenance	Ffmainte.log
CS シリーズ	Flatfile Maintenance - データ管理	FFBackup.log
CS シリーズ	pdbmagic	PdbMagic.log
CS シリーズ	pdbmagic2	pdbmagic2.log
CS シリーズ	SAP magic	r3mgx.log
CS シリーズ	udbmagic	udbmagic.log
CS シリーズ	x2f	x2f.log
CS シリーズ	Packet Monitor	wmonpost.log
CS シリーズ	MIB Collector	mibcl.log
CS シリーズ	HTTP Log Processor	log2f.log、logscn.log
CS シリーズ	CS-Java	wascl.log
CS シリーズ	CS-CONNECT	etcmgx.log
CS シリーズ	CS-VMware (vmwmon)	vmwmon.log
CS シリーズ	CS-VMware (vmwm4vc)	vmwm4vc.log
CS シリーズ	CS-Hyper-V	hvmon.log
CS シリーズ	CS-Virtage	vtgmon.log
CS シリーズ	iim collect	iimcllct.log
CS シリーズ	iim clock server	iimclksv.log
CS シリーズ	CS-RMON ※	rmonmgx.log
CS シリーズ	ES/1 管理マシン ディスクチェック	es1chkdisk.log
CS シリーズ	CS-Storage	stgmon.log
CS シリーズ	CS-AWS	awsmon.log
CS シリーズ	APM Collector ※	apmcl.log
MF シリーズ	Performance Navigator	Pnavi.log
MF シリーズ	ES/1 Web	eslwebxc.log
MF シリーズ	MF-CONNECT	pnetcmgx.log
LOG	Log Utility	LogUtil.log
PWS	Performance Web Service Uploader	PWSUploader.log
PWS	Performance Web Service Maintenance	pwsmaint.log

※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。

(4)プログラム名

インストールされているプログラム一覧が表示されます。

(5)ログファイル

ログファイルへの出力レベルが表示されます。

(6)ファイルサイズ上限(KB)

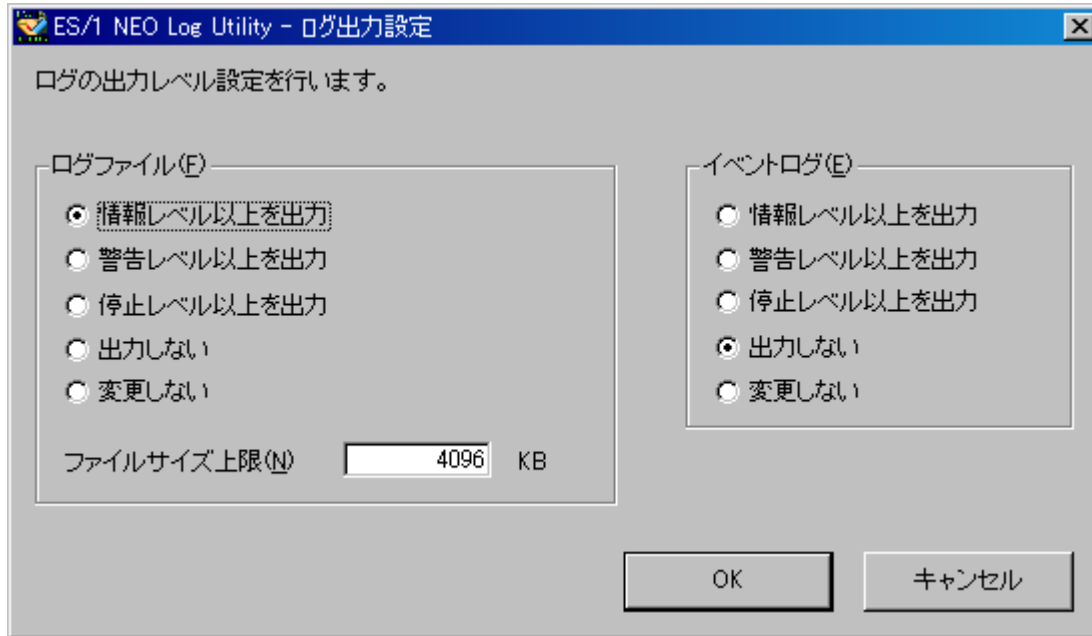
ログファイルの切り替えサイズが表示されます。

(7)イベントログ

イベントログへの出力レベルが表示されます。

(8)[変更(T)...]ボタン

プログラム一覧から選択されたプログラムのログ出力レベルの設定画面を表示します。複数のプログラムを一括して変更する場合は、[Ctrl]、または[Shift]キーを押下しながら、マウスで選択します。[変更(T)...]ボタンを押下すると、「ES/1 NEO Log Utility - ログ出力設定」画面が表示されます。



①ログファイル(F)

ログファイルへの出力レベルと、切り替えサイズを設定します。

プログラム一覧から複数のプログラムを選択し、それらの出力レベルが異なる場合は、「変更しない」が選択された状態で表示されます。

②イベントログ(E)

イベントログへの出力レベルを設定します。

プログラム一覧から複数のプログラムを選択し、それらの出力レベルが異なる場合は、「変更しない」が選択された状態で表示されます。

③[OK]ボタン

選択した内容をログ設定画面の一覧に反映します。

④[キャンセル]ボタン

選択した内容を破棄します。

(9)[登録]ボタン

変更した内容を保存し、有効にします。(※1)

※1: ES/1 NEO シリーズの各プロダクトを起動した状態でログ設定を行うことはできません。

ログの設定値が実際に適用されるタイミングは、プログラムによって異なります。

(10)[キャンセル]ボタン

変更した内容を破棄し、保存しません。

第4章 ビューア

ログファイルを閲覧します。

4.1. ビューア機能概要

ビューアは、プログラムが出力したログファイルを効率よく閲覧するツールです。通常は、「ログ設定」の「ログの出力先」に設定されたログファイルを一覧表示しますが、必要であれば、過去のログファイルを表示することができます。日付等でフィルタリングして、特定のメッセージだけを閲覧することも可能です。

<主な機能>

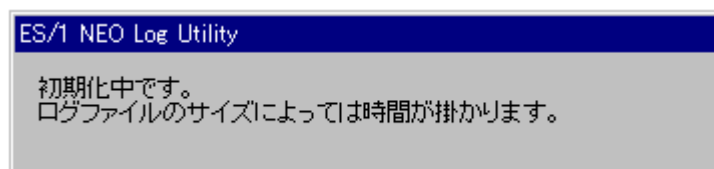
- ・ログファイルの閲覧
- ・ログファイルの読み込みと削除
- ・メッセージのソート
- ・メッセージのフィルタ

4.2. 起動方法

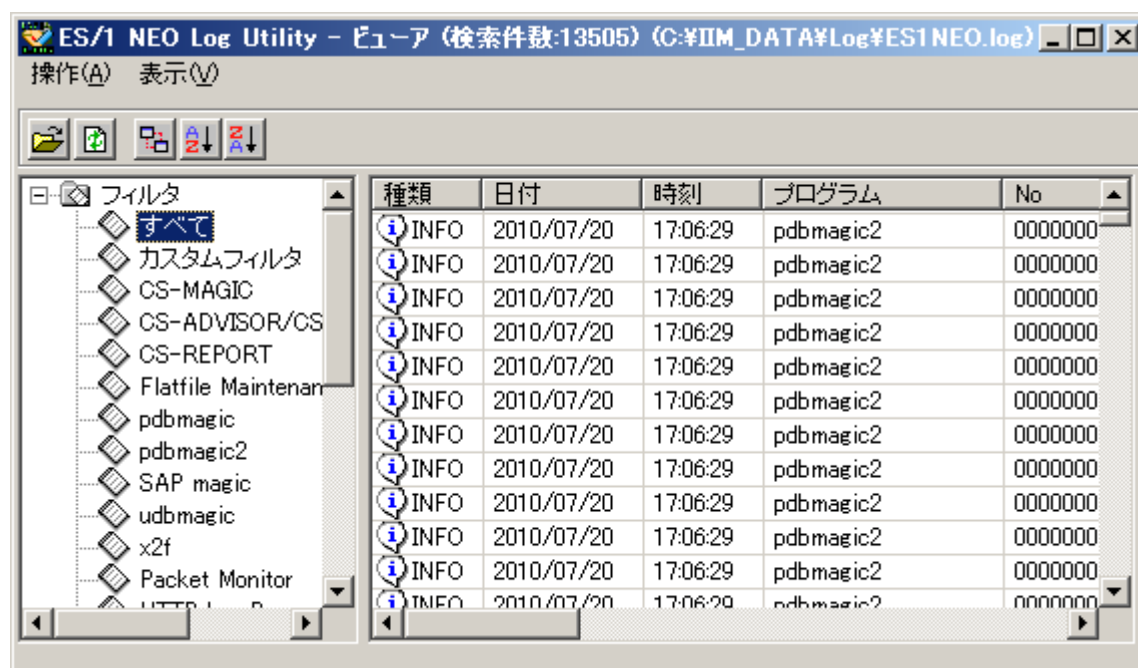
「ES/1 NEO Log Utility」画面の[ビューア(V)]ボタンを押下、または「機能(K)」メニューの「ビューア(V)...」を選択します。



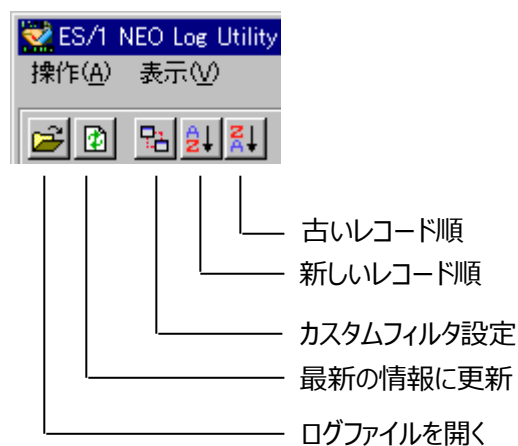
初期化画面が表示されます。ログファイルのサイズによっては、次の画面が表示されるまでに時間が掛かる場合があります。



起動すると、以下の「ES/1 NEO Log Utility - ビューア」画面が表示されます。

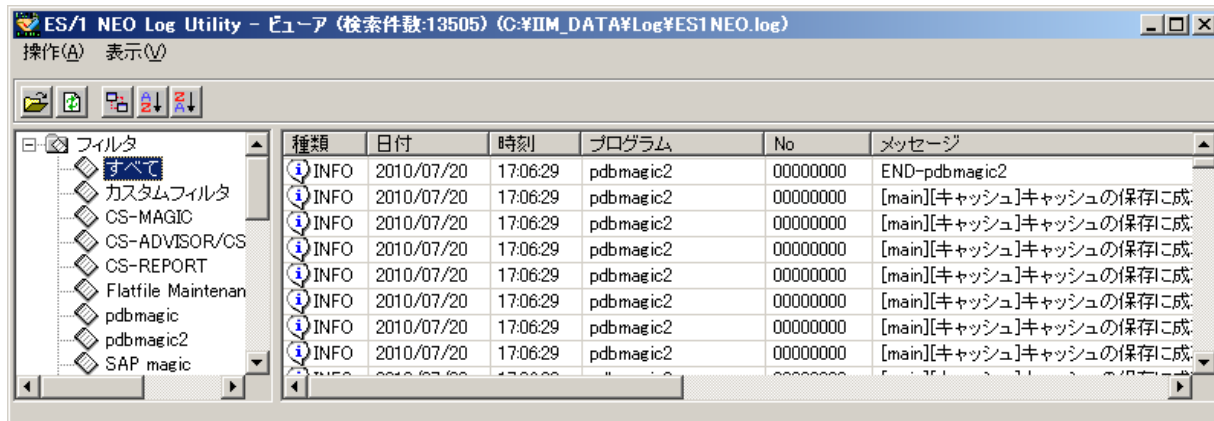


メニュー下には、メニューに対応するショートカットボタンがあります。



4.3. ビューア

「ES/1 NEO Log Utility - ビューア」画面には、メニューとそのショートカットボタン、フィルタのツリーとログのリストが表示されます。



(1)メッセージリスト

起動直後は、「ログ設定」の「ログの出力先」に設定されたログファイルの情報が、日付・時間の新しい順にリスト表示されます。

※一時ファイルが作成されていない場合、ログファイルの情報は表示されません。

種類	日付	時刻	プログラム	No	メッセージ
INFO	2005/05/31	20:04:03	Log Utility	00000000	END-ES/1 NEO Log Utility
INFO	2005/05/31	20:04:01	Log Utility	00000000	import db from logfile.(C:\Program Files\IIM_DATA
INFO	2005/05/31	20:03:59	Log Utility	00000000	delete db file.(C:\Program Files\IIM\LOG\LogView
INFO	2005/05/31	20:03:59	Log Utility	00000000	START-ES/1 NEO Log Utility
INFO	2005/05/31	20:01:28	Log Utility	00000000	END-ES/1 NEO Log Utility
INFO	2005/05/31	20:01:24	Log Utility	00000000	START-ES/1 NEO Log Utility
INFO	2005/05/31	20:00:59	Log Utility	00000000	END-ES/1 NEO Log Utility
INFO	2005/05/31	20:00:55	Log Utility	00000000	import db from logfile.(C:\Program Files\IIM_DATA

種類 このメッセージの種類です。INFO(情報)、WARN(警告)、STOP(停止)の3種類があります。

日付 メッセージが出力された日付です。

時刻 メッセージが出力された時刻です。

プログラム 出力元のプログラム名称です。

No それぞれのプログラム毎に管理されている8桁のメッセージ番号です。

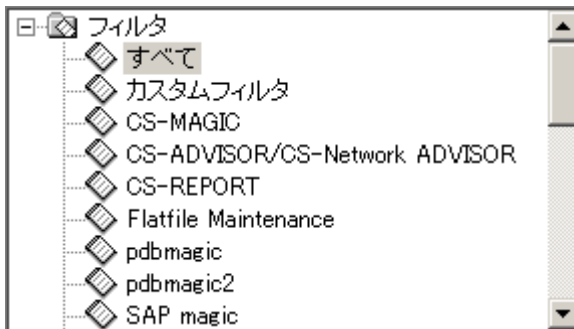
メッセージ メッセージの本文です。

それぞれのカラムヘッダーをクリックすると、その項目でのソートを行います。同じカラムを続けてクリックするとソートの昇順・降順が切り替わります。このとき、第2の条件として日付・時刻が使用されますので、実際は「選択項目 + 日付・時間」でのソートとなります。また、日付・時間はメニューから「表示(V)」「新しいレコード順(N)」、または「古いレコード順(D)」を選択することにより、降順・昇順を切り替えることができます。

リストに表示される最大件数は1000件です。参照したい情報がリストに表示されない場合は、後述する「カスタムフィルタ機能」を使用します。

(2)フィルタ・ツリー

画面左にあるフィルタ・ツリーの項目を選択すると、メッセージリストに表示する内容を絞り込むことができます。



起動直後は「すべて」が選択されています。「すべて」の項目は、一切のフィルタを行いません。「カスタムフィルタ」の項目は、別画面の「カスタムフィルタ設定画面」でユーザが設定した条件で絞り込みます。「すべて」「カスタムフィルタ」以後には、プログラム名称のフィルタが続きます。それぞれの項目を選択することにより、そのプログラムだけのメッセージを表示します。

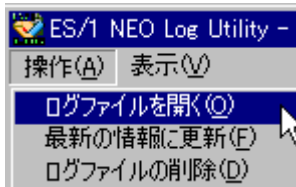
また、フィルタを変更すると、ウィンドウタイトル部に、そのフィルタにより選択されたメッセージの件数が表示されます。(※1)



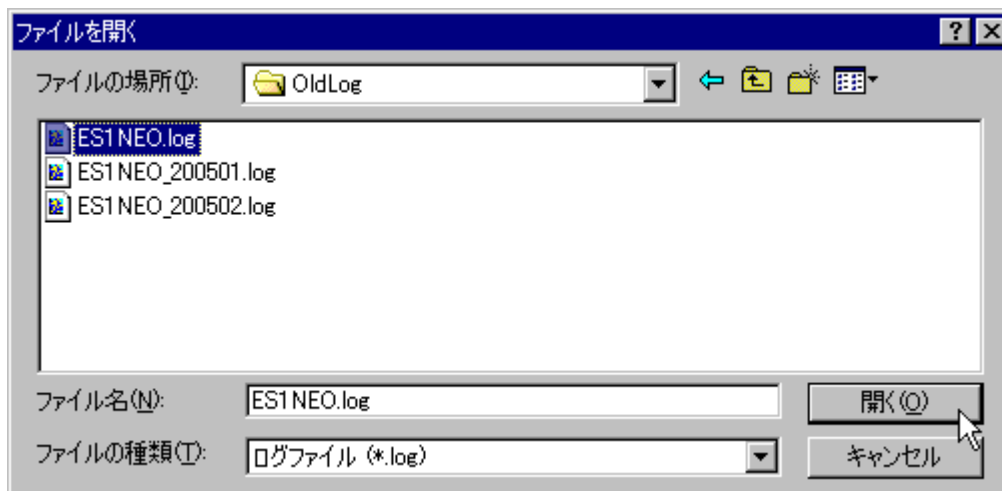
※1:リスト上に表示されるメッセージの最大は 1000 件です。

(3)ログファイルを開く(O)

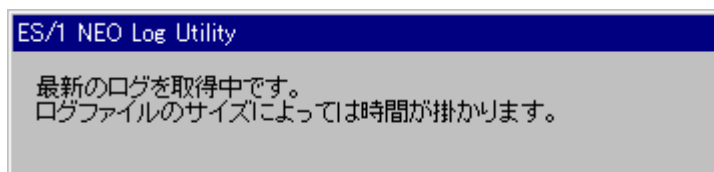
ログの出力先で指定した、現行のログファイル及び、一世代前のログファイルを読み込みビューアに展開します。また一時的に別のログファイルをビューアに展開することが出来ます。メニューから「操作(A)」「ログファイルを開く(O)」を選択します。



ファイル選択のダイアログが表示されますので、ログファイルを指定し、[開く(O)]ボタンを押下します。ビューアが読み込むことができるのは、「ログ設定」の「ログの出力先」により指定されたファイルです。それ以外のフォーマットは対象外となります。



[開く(O)]ボタンを押下すると、初期化画面が表示されます。選択したログファイルのサイズによっては、リストの更新に時間が掛かる場合があります。この画面を閉じると、リストは選択したログファイルの内容で更新されます。



また、ウィンドウタイトル部には選択されたログファイルのパスが表示されます。

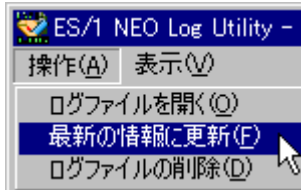


メモ！

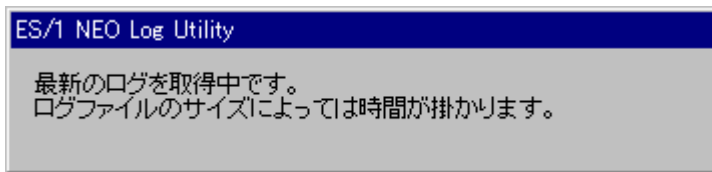
「ログファイルを開く」を実行すると、ログファイルを読み込み、高速にメッセージを選択する為の一時ファイルを作成します。この動作はログファイルのサイズによっては時間が掛かる為、通常は事前にバッチ実行にてインポート処理を行うか「最新の情報に更新」機能で差分更新を行います。

(4)最新の情報に更新(F)

現在開いているログファイルの差分を読み込み(※1)、リストに反映します。メニューから「操作(A)」 「最新の情報に更新(F)」を選択します。



ログファイルを取得するために、処理中画面が表示されます。前回からの差分が大きいほどリストが更新されるまでに時間が掛かります。

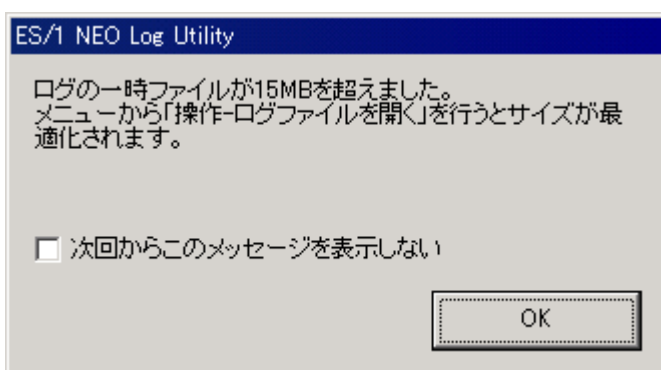


メモ！

ログファイルの切り替えが発生した場合や、サフィックス「.0」付きのログファイルをリネームしてしまうと更新処理が行えませんので、「ログファイルを開く」機能をご使用ください。

※1:差分更新は一時ファイルを再作成せずに、追記する形で行われます。一時ファイルの容量が大きくなると表示に時間を要したり、古いログがいつまでも表示されていたりする原因となりますので定期的なバッチ実行でのログファイルのインポートを行うことをお勧め致します。

一時ファイルの容量が 15MB を越えた場合は、下記のメッセージが出力されます。
このような警告メッセージが出力された場合、ログファイルのインポートを実行してください。

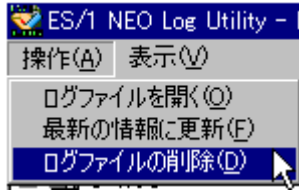


メモ！

ES1NEO.log の上限サイズを通常より大きく設定している場合、ログのインポート処理を行っていてもこのメッセージが出力されることがあります。その場合、「次回からこのメッセージを表示しない」にチェックを入れてください。

(5) ログファイルの削除(D)

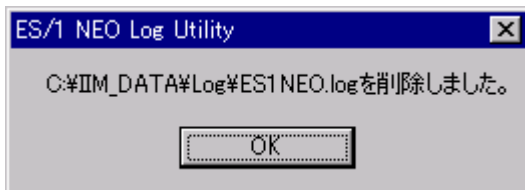
現在開いているログファイルを削除します。メニューから「操作(A)」 「ログファイルの削除(D)」を選択します。



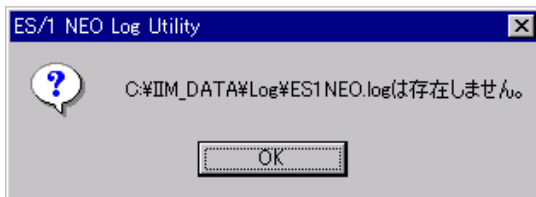
確認のダイアログが表示されますので、「はい」を選択します。



削除の完了を通知するダイアログが表示されます。

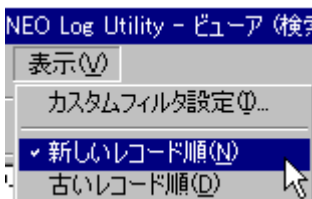


削除対象のファイルが存在しない場合は、以下のダイアログが表示されます。



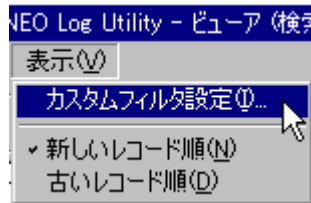
(6) ソート方法を変更する

ソート方法を変更します。メニューから「表示(V)」 「新しいレコード順(N)」、または「古いレコード順(D)」を選択します。選択した方法により、メッセージを並び替えてリストを再表示します。



4.4. カスタムフィルタ設定

ユーザ独自のフィルタを作成します。メニューから「表示(V)」 「カスタムフィルタ設定(I)...」を選択します。



カスタムフィルタ設定画面が表示されます。条件を指定し[登録]ボタンを押下すると、その条件のフィルタを作成します。以前にカスタムフィルタを作成していた場合は、新しい設定で上書きします。この設定は、ビューアを終了しても保存されます。

The screenshot shows the 'ES/1 NEO Log Utility - ビューア - カスタムフィルタ設定' dialog box. It contains the following sections:

- プログラム(P)**: 対象とするプログラムを指定します。
 - ☒ すべてのプログラムを対象とする
 - ☐ 次のプログラムを対象とする
- 種類(T)**: 対象とするログ出力レベルを指定します。
 - ☐ 情報レベル
 - ☒ 警告レベル
 - ☒ 停止レベル
- メッセージ(M)**: 対象とするメッセージを指定します。文字列を半角空白で区切るとOR検索を行います。
 - ☒ すべてのメッセージを対象とする
 - ☐ 次のメッセージを対象とする
- 範囲(R)**:

開始	最初のレコード	2008/08/01	0:00:00
終了	最後のレコード	2008/08/01	0:00:00

At the bottom right, there are two buttons: '< 戻る(B)' and '登録'.

(1)プログラム(P)

プログラム名称によりフィルタします。

- | | |
|------------------|--------------------|
| ・すべてのプログラムを対象とする | フィルタしません。 |
| ・次のプログラムを対象とする | 選択したプログラムでフィルタします。 |

プログラム(P)
対象とするプログラムを指定します。

☐ すべてのプログラムを対象とする

☒ 次のプログラムを対象とする

CS-MAGIC

(2)種類(T)

メッセージの種類によりフィルタします。

- | | |
|--------|------------------------|
| ・情報レベル | 情報レベルを対象とする場合はチェックします。 |
| ・警告レベル | 警告レベルを対象とする場合はチェックします。 |
| ・停止レベル | 停止レベルを対象とする場合はチェックします。 |

種類(T)
対象とするログ出力レベルを指定します。

☐ 情報レベル

☒ 警告レベル

☒ 停止レベル

(3)メッセージ(M)

メッセージによりフィルタします。

- | | |
|------------------|--|
| ・すべてのメッセージを対象とする | フィルタしません。 |
| ・次のメッセージを対象とする | テキストボックスに入力した文字列を含むメッセージをチェックします。複数の文字列を全／半角の空白で区切って OR 検索も可能です。(※1) |

(例)「エラー ERROR」と入力した場合

「エラー」または「ERROR」のいずれかを含むメッセージをチェック

メッセージ(M)
対象とするメッセージを指定します。文字列を半角空白で区切るとOR検索を行います。

☒ すべてのメッセージを対象とする

☐ 次のメッセージを対象とする

※1:全／半角の空白、および半角シングルクォーテーション「'」は検索文字列として使用できません。

(4)範囲(F)

日付・時刻によりフィルタします。

- ・開始 起点となる日付と時刻を指定します。フィルタしない場合は「最初のレコード」を選択します。
- ・終了 終点となる日付と時刻を指定します。フィルタしない場合は「最後のレコード」を選択します。

範囲(F)			
開始	最初のレコード	2005/08/01	0:00:00
終了	最後のレコード	2005/08/01	0:00:00

(5)[< 戻る(B)]ボタン

入力した値を破棄して、ビューア画面に戻ります。

(6)[登録]ボタン

入力した値を保存して、ビューア画面に戻ります。

4.5. ログファイルのインポート

バッチ等で「LogView.exe /import」を実行すると、ビューアの一時ファイルを予め作成することができます。これは、画面上から「ログファイルを開く」動作と同等の機能です。

ログファイルのインポート手順

LogView.exe にパラメータを付与します。実行の指定は、コマンドプロンプトや、「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行(R)…」から行います。

```
"C:¥IIM¥Log¥LogView.exe" /import
```

パラメータ「/import」を付与します。これにより、ログファイルのインポートを行います。

第5章 メール通知

ログファイルの内容を指定した条件でチェックし、結果をメールで通知します。

5.1. メール通知機能概要

メール通知では、チェック条件とメールの宛て先を設定します。チェック、およびメール送信を行うにはコマンドラインから指定します。

<主な機能>

- ・ログファイルのチェック条件設定
- ・チェック結果の宛て先設定
- ・チェック結果の通知

5.2. 起動方法

「ES/1 NEO Log Utility」画面の[メール通知(M)]ボタンを押下、または「機能(K)」メニューの「メール通知(M)...」を選択します。



起動すると、以下の「ES/1 NEO Log Utility - メール通知」画面が表示されます。

ES/1 NEO Log Utility - メール通知

メッセージ通知プログラムで使用する条件設定を行います。

処理選択 (C)

☒ メール通知を新規作成する
メール通知を新規作成します。作成したメール通知はメッセージ通知プログラムで使用できます。

☐ 既存のメール通知を編集する
以前作成したメール通知の編集(条件の更新・削除)を行います。

メール通知一覧 (L)

選択中のメール通知を削除 (D)

登録内容一覧 (R)

項目	設定値
----	-----

< 戻る (B) 次へ (N) >

5.3. メール通知

メール通知は、メッセージをチェックする条件、チェック結果を通知する宛て先を作成します。

(1)メール通知画面

「ES/1 NEO Log Utility - メール通知」画面では、メール通知の新規作成、編集、および削除を行います。メール通知を新規作成するには、処理選択で「メール通知を新規作成する」が選択された状態で[次へ (N)>]ボタンを押下します。

- ①処理選択(C)処理を選択します。
 - ・メール通知を新規作成する新たにメール通知を作成する場合に選択します。
 - ・既存のメール通知を編集する作成済みのメール通知を変更、削除する場合に選択します。
- ②[選択中のメール通知を削除(D)]ボタン.....リストから選択されているメール通知を削除します。
- ③[< 戻る(B)]ボタン.....ES/1 NEO Log Utility」画面に戻ります。
- ④[次へ (N)>]ボタン.....「メール通知ウィザード(1/2)」画面を表示します。

(2)メール通知ウィザード(1/2)

ここでは、メッセージをチェックする条件を作成します。新規作成時は、メール通知名を入力し[追加(A)...]ボタンを押下します。

ES/1 NEO Log Utility - メール通知ウィザード(1/2)

メール通知名(Q)
一意の名前を入力してください。この名称は、バッチ実行時のパラメータとして使用します。

エラー通知

条件一覧(C)

..... 条件

項目	設定値

追加(A)...編集(E)...削除(R)

< 戻る(B)

次へ(N)>

- ①メール通知名(G)メール通知の名前を入力します。
- ②[追加(A)...]ボタン.....条件指定画面を表示します。
- ③[編集(E)...]ボタン選択した条件を編集します。
- ④[削除(R)]ボタン.....選択した条件を削除します。
- ⑤[< 戻る(B)]ボタン.....「ES/1 NEO Log Utility – メール通知」画面に戻ります。
- ⑥[次へ (N)>]ボタン.....「メール通知ウィザード(2/2)」画面を表示します。

(3)条件指定

メッセージのチェック条件を指定します。

メッセージが絞り込めないような条件は設定できません。そのような条件で[登録]ボタンを押下すると、警告のダイアログが表示されます。



- ①条件名(G)…………… 条件名称を指定します。複数の条件を作成する場合は、同じ名称は使用できません。
バッチ実行にチェック対象としない場合は「この条件を有効にする」チェックをはずします。

条件名

一意の名前を入力してください。

条件名(G)

☒ この条件を有効にする(H)

- ②プログラム(P) ……… プログラム名称によるチェックを行います。
- すべてのプログラムを対象とする すべてのプログラムをチェック対象とします。
 - 次のプログラムを対象とする 選択したプログラムをチェック対象とします。

プログラム(P)

対象とするプログラムを指定します。

☐ すべてのプログラムを対象とする

☒ 次のプログラムを対象とする

- ③種類(T)…………… メッセージの種類によりチェックを行います。
- 情報レベル 情報レベルのメッセージをチェック対象とする場合は、チェックします。
 - 警告レベル 警告レベルのメッセージをチェック対象とする場合は、チェックします。
 - 停止レベル 停止レベルのメッセージをチェック対象とする場合は、チェックします。

種類(T)

対象とするログ出力レベルを指定します。

☐ 情報レベル

☒ 警告レベル

☒ 停止レベル

- ④メッセージ(M) ……… メッセージによるチェックを行います。
- すべてのメッセージを対象とする すべてのメッセージをチェック対象とします。
 - 次のメッセージを対象とする テキストボックスに入力した文字列を含むメッセージをチェックします。

複数の文字列を全／半角で区切って OR 検索も可能です。(※1)

例) 「エラー ERROR」と入力した場合
「エラー」または「ERROR」のいずれかを含むメッセージをチェック

メッセージ(M)

対象とするメッセージを指定します。文字列を半角空白で区切るとOR検索を行います。

☒ すべてのメッセージを対象とする

☐ 次のメッセージを対象とする

※1:全／半角の空白、および半角シングルクォーテーション「'」は検索文字列として使用できません。

- ⑤[戻る(B)]ボタン・入力した値を破棄し、「メール通知ウィザード(1/2)」画面に復帰します。
- ⑥[登録]ボタン …… 入力した値を保存し、「メール通知ウィザード(1/2)」画面に復帰します。

条件指定画面から登録された内容は、条件一覧にツリー表示されます。他の条件を作成する場合は、続けて[追加(A)...]ボタンを押下します。条件一覧のツリーから条件を選択することにより、リストに各項目の詳細が表示されます。また、選択した条件は[編集(E)...]ボタンを押下すると条件設定画面が表示され、追加と同様に条件の再編集が行えます。[削除(R)]ボタンを押下すると、その条件はツリーから削除されます。

ES/1 NEO Log Utility - メール通知 - メール通知ウィザード(1/2)

メール通知名(G)

一意の名前を入力してください。この名称は、バッチ実行時のパラメータとして使用します。

エラー通知

条件一覧(C)

条件

- 種類が警告、停止レベル
- メッセージがエラー
- メッセージがERROR

項目	設定値
有効／無効	有効
プロダクト	すべてのプロダクト
情報レベル	On
警告レベル	On
停止レベル	On
メッセージ	エラー

追加(A)...

編集(E)...

削除(R)

< 戻る(B)

次へ (N) >

(4)メール通知ウィザード(2/2)

ここでは、メールの宛て先を設定します。初期表示される値は「メールのデフォルト送信先」により変更することが可能です。
詳細は「7.1.メールのデフォルト送信先」を参照ください。

ES/1 NEO Log Utility - メール通知 - メール通知ウィザード(2/2)

電子メール(M)

☒ 電子メールで送信する

☐ Flatfile Maintenanceのチェック結果も合わせて送信する

送信テスト(P)

送信元電子メールアドレス(E)

送信先電子メールアドレス(D)

追加(A)... 削除(R)

送信メールサーバ(SMTP)設定(S)

☒ サーバ名 localhost

☐ IPアドレス 127 0 0 1

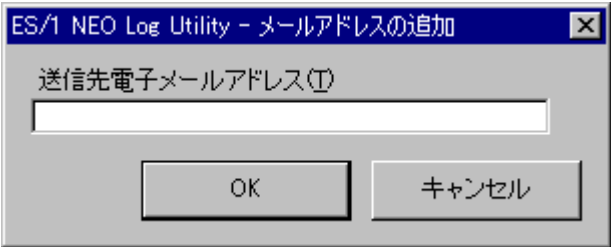
ポート番号 25

タイムアウト 10 秒

件名 デフォルトの送信先

< 戻る(B) 完了

<電子メールの設定>

項目名	説明
電子メールで送信する	チェック結果を電子メールで通知する場合はチェックします。
Flatfile Maintenance のチェック結果も合わせて送信する	Flatfile Maintenance で通知されるメール内容を取り込み、通知メッセージの一部として送信します。「電子メールで送信する」にチェックが付いている場合にのみチェックできます。
送信元電子メールアドレス(F)	送信元 (From) のアドレスを指定します。
送信先電子メールアドレス(T)	送信先 (To) のアドレスを指定します。[追加(A)...]ボタンを押下すると、入力補助のダイアログが表示されますので、アドレスを入力後[OK]ボタンを押下します。 
サーバ名、IP アドレス	メールサーバのサーバ名、または IP アドレスを指定します。
ポート番号	メールサーバのポート番号を指定します。
タイムアウト	メール送信時にメールサーバからの応答を待機する時間を秒単位で指定します。
件名	件名 (Subject) を指定します。

電子メールでは、テストメールを送信できます。テストメールを送信するには、項目入力後に[発信テスト(P)]ボタンを押下します。

注意！

- (1) 電子メール送信機能はメール送信時に認証が必要な環境には対応していません。
- (2) メールを送信エラーを避ける為、送信元／送信先のメールアドレスを正しく設定してください。

5.4. ログのチェック

メッセージをチェックするには、バッチ等で「ES1PCLog.exe /checklog」を実行します。チェック結果は、電子メールにて通知されます。

(1) ログのチェック手順

ES1PCLog.exe にパラメータを付与します。実行の指定は、コマンドプロンプトや、[スタート]メニューの「ファイル名を指定して実行(R)...」から行います。

```
"C:¥IIM¥Log¥ES1PCLog.exe" /checklog
```

パラメータ「/checklog」を付与します。これにより、ログファイルのチェックを行います。

(2) メールのお知らせ内容

メールでは、以下の情報を通知します。

- ・ログファイルのチェック結果
- ・プロセスの動作状況
- ・アプリケーションの終了状況
- ・Flatfile Maintenance 限界値チェック
- ・Flatfile Maintenance 状態チェック

① ログファイルのチェック結果

ログファイルのチェック結果は、条件に一致するメッセージをリスト形式で報告します。条件指定画面で「この条件を有効にする(H)」にチェックされた条件が対象となります。

ただし、前回までに報告されたメッセージは報告の対象外となります。

<条件に一致するメッセージがあった場合>

```
#####
ログファイルのチェック結果
#####
-----
通知名：エラー通知
-----
=====
条件名：種類が警告、停止レベル
=====
PHP,WARN,ff0c0001,2004/12/24,16:17:58,,,XXXXXXXXX ...
PHP,WARN,ff0c0001,2004/12/24,16:22:54,,,XXXXXXXXX ...
```

<条件に一致するメッセージがない場合>

```
#####
ログファイルのチェック結果
#####
条件に一致するメッセージはありません。
```

②プロセスの動作状況

バッチ実行時にプログラムが動作中である場合に報告します。「③アプリケーションの終了状況」と併せて確認してください。

②で報告されたプログラムが③で報告されない場合は、同時に実行しないようにスケジューリングを変更してください。②、

③どちらからも報告された場合は、そのプログラムは処理が完了していない可能性があります。

実行中のプログラムがある場合は、前回のチェックに関わらず報告します。

<動作中のプログラムがあった場合>

```
#####
プロセスの動作状況
#####
CS-MAGIC
が動作中です。
```

<動作中のプログラムがない場合>

```
#####
プロセスの動作状況
#####
動作中のプロセスはありません。
```

③アプリケーションの終了状況

バッチ実行時にログファイルをチェックして、プログラムが異常終了している場合に報告します。②で報告されていないプログラムが③で報告された場合は、何らかの原因でプログラムが強制終了した可能性があります。

このチェックは、ログファイルに出力されるプログラム毎の「START」メッセージと「END」メッセージの数が異なる場合をエラーとして扱います。但し、前回のチェックと差が同じ場合は、状態が変化していない理由から正常であると報告します。

<終了していないプログラムがあった場合>

```
#####
アプリケーションの終了状況
#####
CS-MAGIC
が動作中、または異常終了しています。
```

<終了していないプログラムがない場合>

```
#####
アプリケーションの終了状況
#####
アプリケーションは正常に終了しています。
```

④Flatfile Maintenance 限界値チェック

最後に実行した Flatfile Maintenance の限界値チェック結果を報告します。この報告を利用するには、「ES/1 NEO Log Utility - メール通知ウィザード(2/2)」画面の「Flatfile Maintenance のチェック結果も合わせて送信する」にチェックします。

<Flatfile Maintenance の限界値チェック>

```
#####
Flatfile Maintenance 限界値チェック
#####
-----
Subject: プロセッサ使用率
-----
SiteA/SystemB
2002/05/02 17:30,2,SHIFT(00:00-23:59),重要度 1,条件_プロセッサ,プロセッサ使用率 ...
2002/05/02 17:30,2,SHIFT(00:00-23:59),重要度 2,条件_プロセッサ,プロセッサ使用率 ...
```

⑤Flatfile Maintenance 状態チェック

最後に実行した Flatfile Maintenance の状態チェック結果を報告します。この報告を利用するには、「ES/1 NEO Log Utility - メール通知ウィザード(2/2)」画面の「Flatfile Maintenance のチェック結果も合わせて送信する」にチェックします。

<Flatfile Maintenance の状態チェック>

```
#####
Flatfile Maintenance 状態チェック
#####
-----
Subject:FFM
-----
siteA/systemB 条件_プロセッサ(siteA systemB)
チェックしたデータに問題はありませんでした。

対象システム: siteA/systemC
対象期間: 2004/04/01 00:00:00 - 2005/03/31 47:59:00

=====
欠損チェック結果
=====
プロセッサ・メモリ情報(プロセッサ)にレコードの欠損が見つかりました(54 件): 2004/07/03 00:00:00～
プロセッサ・メモリ情報(システムコール)にレコードの欠損が見つかりました(6 件): 2004/07/03 00:30:00～

=====
更新状態チェック結果
=====

対象システム: siteA/systemC
対象期間: 2004/04/01 00:00:00 - 2005/03/31 47:59:00
```

第6章 SNMP TRAP

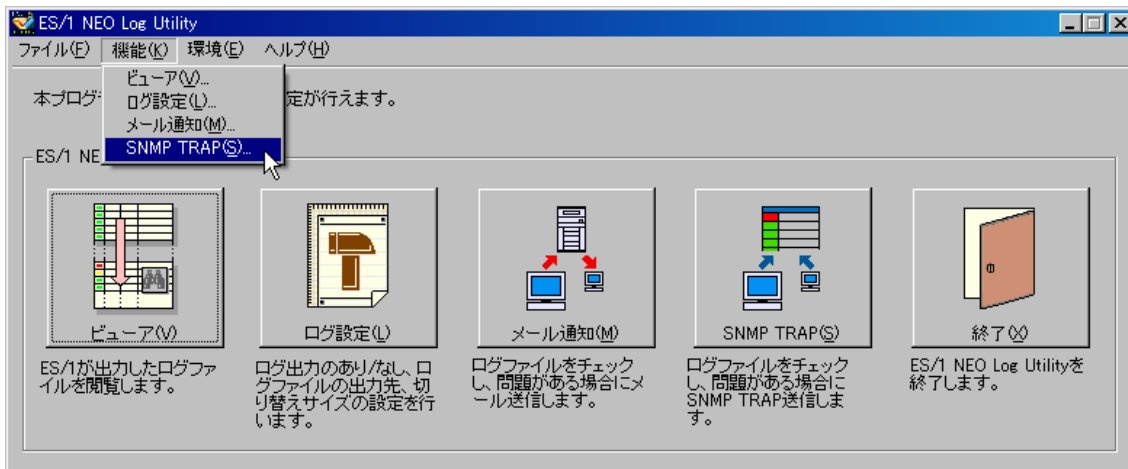
ログファイルの出力レベルとプログラムの異常終了をチェックし、その結果を SNMP TRAP メッセージで通知します。

6.1. SNMP TRAP 機能概要

SNMP TRAP では、チェック条件を設定します。送信先の指定は、メインメニューの[環境]-[SNMP 送信先]にて行います。チェック、および SNMP TRAP メッセージ送信を行うにはコマンドラインから指定します。

6.2. 起動方法

「ES/1 NEO Log Utility」画面の[SNMP TRAP(S)]ボタンを押下、または「機能(K)」メニューの「SNMP TRAP(S)...」を選択します。



起動すると、以下の「ES/1 NEO Log Utility – SNMP TRAP」画面が表示されます。

ES/1 NEO Log Utility – SNMP TRAP

SNMP TRAPメッセージを送信する条件、プログラム毎のチェック方法を設定します。
送信先の指定は、メインメニューの[環境]-[SNMP送信先]にて行います。

SNMP TRAP の送信条件(S)

☒ SNMP TRAPメッセージを送信する
☐ 検査対象レベル以下の場合も通知する

各プログラムの検査対象レベル(L)

分類	プログラム名	検査対象レベル	異常終了の検知
CS	CS-MAGIC / CS-ADVISOR / CS-Network ADVISOR	停止レベル以上	有効
CS	CS-REPORT	停止レベル以上	有効
CS	CS-VMware(vmwmon)	停止レベル以上	有効
CS	CS-VMware(vmwmon4vc)	停止レベル以上	有効
CS	CS-Java	停止レベル以上	有効
CS	CS-TREND	停止レベル以上	有効
CS	CS-CONNECT	停止レベル以上	有効
CS	Packet Monitor	停止レベル以上	有効
CS	MIB Collector	停止レベル以上	有効
CS	HTTP Log Processor	停止レベル以上	有効
CS	pdbmagic	停止レベル以上	有効
CS	pdbmagic2	停止レベル以上	有効
CS	udbmagic	停止レベル以上	有効
CS	SAP magic	停止レベル以上	有効

設定を変更したいプログラムを選択して下さい。
[Ctrl]、または[Shift]キーを押下しながらクリックすると、同時に複数のプログラムを選択できます。

変更(F1)

登録 キャンセル

6.3. SNMP TRAP

SNMP TRAP メッセージを送信する条件、プログラム毎のチェック方法を設定します。

(1)SNMP TRAP 画面

ES/1 NEO Log Utility - SNMP TRAP

SNMP TRAPメッセージを送信する条件、プログラム毎のチェック方法を設定します。
送信先の指定は、メインメニューの[環境]-[SNMP送信先]にて行います。

SNMP TRAP の送信条件(S)

☒ SNMP TRAPメッセージを送信する

☐ 検査対象レベル以下の場合も通知する

各プログラムの検査対象レベル(L)

分類	プログラム名	検査対象レベル	異常終了の検知
CS	CS-MAGIC / CS-ADVISOR / CS-Network ADVISOR	停止レベル以上	有効
CS	CS-REPORT	停止レベル以上	有効
CS	CS-VMware(vmwmmon)	停止レベル以上	有効
CS	CS-VMware(vmwm4vc)	停止レベル以上	有効
CS	CS-Java	停止レベル以上	有効
CS	CS-TREND	停止レベル以上	有効
CS	CS-CONNECT	停止レベル以上	有効
CS	Packet Monitor	停止レベル以上	有効
CS	MIB Collector	停止レベル以上	有効
CS	HTTP Log Processor	停止レベル以上	有効
CS	pdbmagic	停止レベル以上	有効
CS	pdbmagic2	停止レベル以上	有効
CS	udbmagic	停止レベル以上	有効
CS	SAP magic	停止レベル以上	有効

設定を変更したいプログラムを選択して下さい。
[Ctrl]、または[Shift]キーを押しながらクリックすると、同時に複数のプログラムを選択できます。

変更(T)...

登録 キャンセル

- ①SNMP TRAP メッセージを送信する……………チェックすると、SNMP TRAP メッセージを送信します。
- ②検査対象レベル以下の場合も送信する……………チェックすると、ログの出力レベルが検査対象レベル以下の場合であっても、SNMP メッセージを送信します。
- ③[変更(T)...]ボタン……………「SNMP TRAP - 変更」画面を表示します。
- ④[登録]ボタン……………現在の設定を保存します。
- ⑤[キャンセル]ボタン……………「ES/1 NEO Log Utility」画面に戻ります。

(2)SNMP TRAP – 変更画面



- ①検査対象レベル…………… チェックするログファイルの種類を指定します。
 - ・情報レベル以上 …………… 情報レベル以上のメッセージをチェック対象とします。複数のレベルが含まれる場合は、最も高いレベルを報告します。
 - ・警告レベル以上 …………… 警告レベル以上のメッセージをチェック対象とします。複数のレベルが含まれる場合は、最も高いレベルを報告します。
 - ・停止レベル以上 …………… 停止レベルのメッセージをチェック対象とします。
 - ・無効…………… チェックを行いません。
 - ・変更しない…………… 現在の設定のまま変更しません。
- ②異常終了の検知 …………… 対象のプロセスが起動しておらず、かつ、ログファイルの START の数が END の数より多い場合に異常終了として報告します。
 - ・有効…………… チェックを行います。
 - ・無効…………… チェックを行いません。
 - ・変更しない…………… 現在の設定のまま変更しません。
- ③[OK]ボタン…………… 変更を適用します。
- ④[キャンセル]ボタン…………… 「SNMP TRAP」画面に戻ります。

6.4. チェック実行

バッチ等で「ES1PCLog.exe/trap」を実行すると、チェックを実行し、その結果をSNMP TRAPメッセージにて送信します。ログファイルのチェック範囲は、前回チェックした最後のメッセージ以降から現在の最新メッセージまでです。

"C:¥IIM¥Log¥ES1PCLog.exe" /trap

SNMP マネジャに通知されるメッセージタイプは以下のとおりです。

TRAP-TYPE	意味	変数
1	ログに問題が無かった。	プログラム名
2	情報レベルのログを検出した。	プログラム名
3	警告レベルのログを検出した。	プログラム名
4	停止レベルのログを検出した。	プログラム名
5	異常終了を検出した。	プログラム名

6.5. MIB ファイル

SNMP マネジャで登録する MIB ファイルは、以下にインストールされます。

<IIM フォルダ>¥Common¥docs¥IIM.MIB

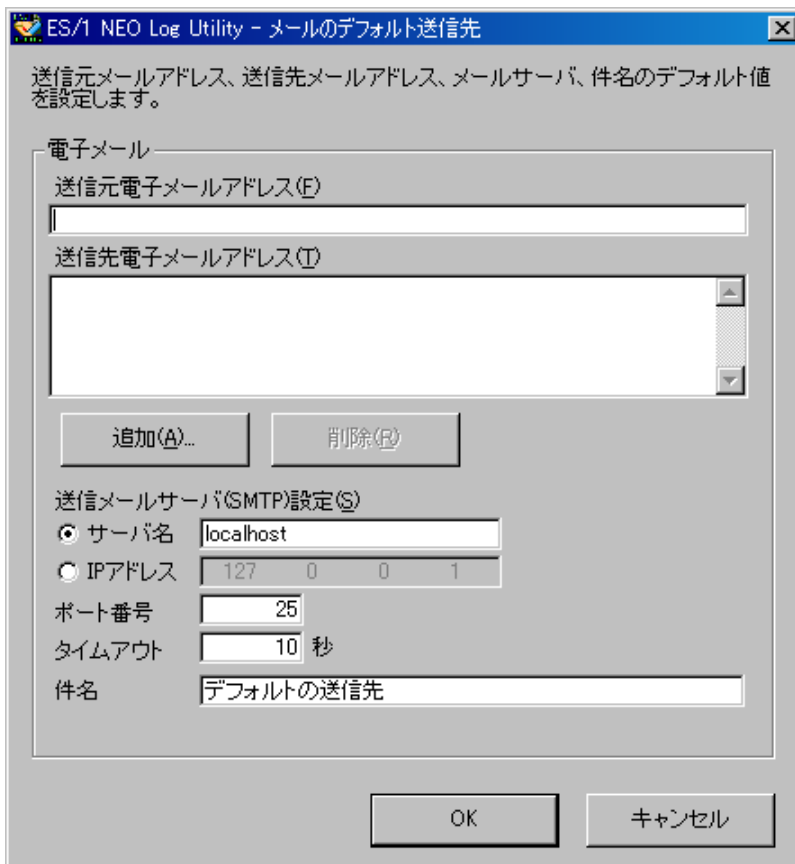
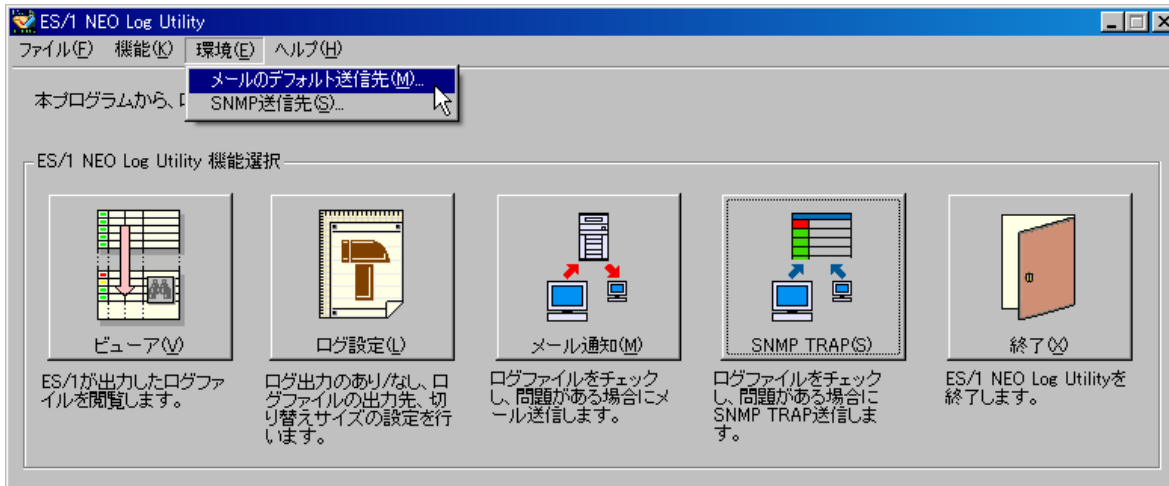
標準インストールの場合は「C:¥IIM¥Common¥docs¥IIM.MIB」です。

第7章 環境設定

プログラムの環境を設定します。

7.1. メールのデフォルト送信先

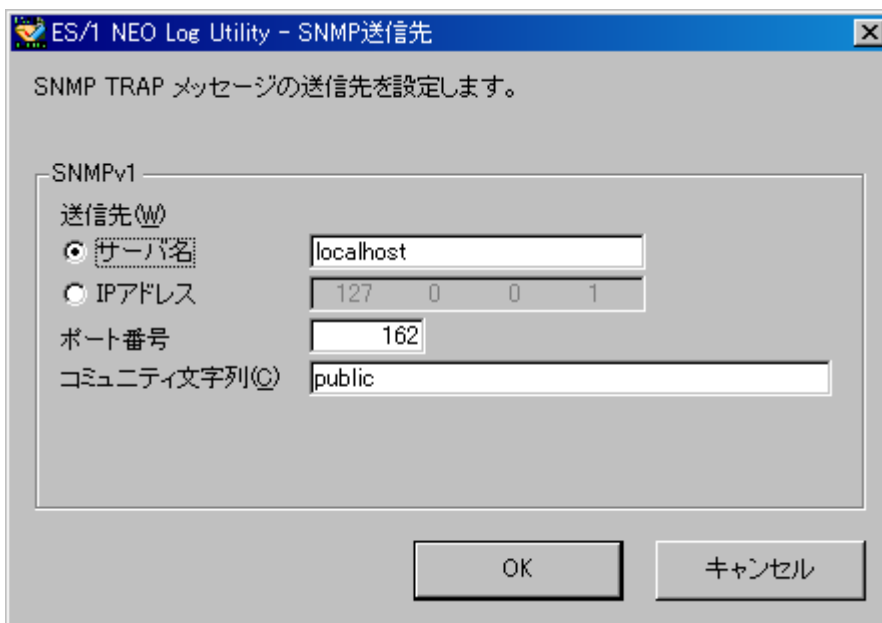
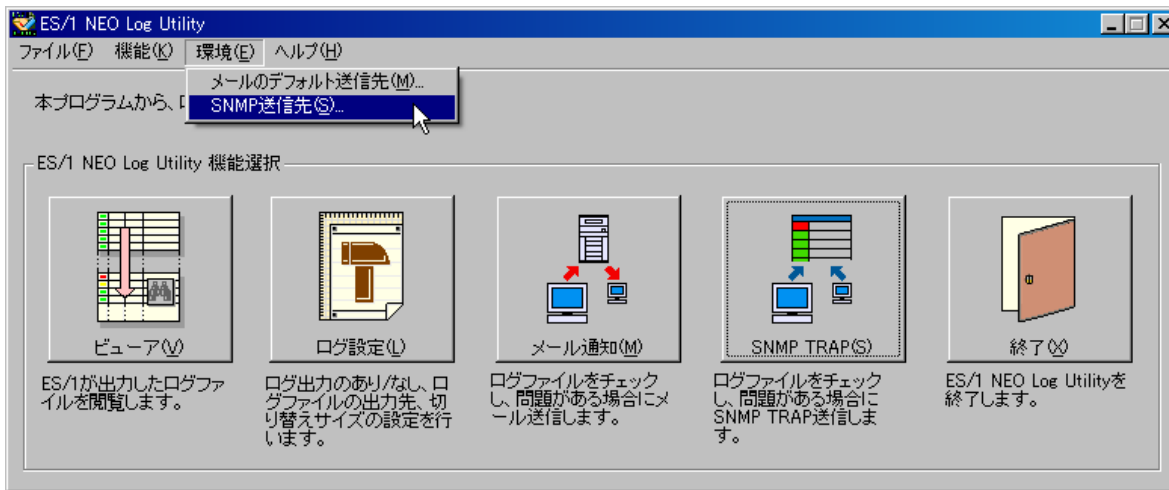
メールのデフォルト送信先を設定することにより、「ES/1 NEO Log Utility - メール通知 - メール通知ウィザード(2/2)」画面のデフォルト値を変更することが可能です。「ES/1 NEO Log Utility」画面の「環境(E)」メニューから、「メールのデフォルト送信先(M)…」を選択します。



項目の詳細は、「5.3.メール通知」を参照してください。

7.2. SNMP 送信先

SNMP TRAP メッセージの送信先を設定します。「ES/1 NEO Log Utility」画面の「環境(E)」メニューから「SNMP 送信先(S)...」を選択します。



- ①サーバ名/IP アドレス.....送信先のサーバを指定します。
- ②ポート番号.....使用するポート番号を指定します。
- ③コミュニティ文字列.....使用するコミュニティ文字列を指定します。
- ④[OK]ボタン.....現在の設定を保存します。
- ⑤[キャンセル]ボタン.....「ES/1 NEO Log Utility」画面に戻ります。

第8章 ログ情報出力レベルの設定

ES/1 NEO MF シリーズ、ES/1 NEO CS シリーズ、または ES/1 NEO Performance HomePage、ES/1 NEO Performance Web Service、ES/1 NEO Log Utility は共通形式のログ情報を出力します。設定は、それぞれの INI ファイルに記述されています。

ログ情報の出力形式は「ファイル」、「イベントログ」の 2 種があります。

8.1. INI ファイルの記述

初期状態でログセクションは、以下のように記述されています。

```
[LOG]
LOGSIZE=4096
LOGLEVEL=2
EVENTLEVEL=0
```

設定は、プログラム単位に行います。

8.1.1. LOGSIZE

ログファイルの最大サイズを指定します。単位は KB です。

ログファイルがここで指定したサイズに達すると、ファイル名にサフィックス「.0」を付加し、新たなログファイルを生成します。すでにサフィックス「.0」が付いたファイルがある場合は上書きします。

(例)
CS-MAGIC(csconf.ini)で LOGSIZE= 1024 としている場合

1. Cs.log ファイルが 1024KB に達している
2. Cs.log.0 にファイル名が変名される
3. この時、すでに Cs.log.0 があれば上書きする
4. 新たな Cs.log を生成する

これにより、常に 1 世代前のログまで保存されます。

メモ！

ログの書き出し中に指定サイズを越えた場合、中断せずにそのまま書き出しを行います。
この場合、ファイルの変名処理は次の書き出し時に行われます。
このため、ログファイルが指定サイズを越える場合があります。

8.1.2. LOGLEVEL

ファイルへ出力するログのレベルを指定します。指定する値と意味については「8.2. 出力レベル」を参照してください。

8.1.3. EVENTLEVEL

Windows 標準のイベントビューアで閲覧可能な、イベントログへ出力するレベルを指定します。指定する値と意味については「8.2. 出力レベル」を参照してください。

8.2. 出力レベル

出力レベルとは、発生した事象の重要度によってログを出力するか否かを決定する指標です。

8.2.1. 情報レベル

情報レベル …… 値：2

軽微な問題やインフォメーションから致命的なエラー情報まで、すべての情報を出力します。

8.2.2. 警告レベル

警告レベル …… 値：4

軽微な問題やインフォメーションは出力しません。注意すべき事象が発生した場合や、致命的なエラーが発生した場合に出力します。

8.2.3. 停止レベル

停止レベル …… 値：8

プログラムが続行不可能な致命的なエラーが発生した場合のみ出力を行います。

8.2.4. 出力しない

出力しない …… 値：0

ログ情報の出力を一切行いません。

メモ！

- ・プログラムの開始ログと終了ログは、必ず出力されます。
- ・ログファイル、イベントログはバッチ実行時のみ出力され、GUI によるオペレーション時は出力されません（CS-Java および Performance Web Service Maintenance は GUI およびバッチ実行時にログファイルが出力されます）。
- ・リターンコードはログファイル、イベントログの出力レベルと連動します。出力レベルが「0」の場合は、リターンコードは 0、または 16 のみを返し、4、8 を返しません。出力レベルが「8」の場合は、0、8、16 を返し、4 を返しません。リターンコードをチェックする場合はログファイル、イベントログ、いずれかの出力レベルを 2、または 4 に設定してください。

8.3. リターンコード

リターンコードをサポートするプログラムでは、バッチ実行時の処理結果を確認することができます。

リターンコード一覧

リターンコード	意味
0	正常に終了しました。
4	警告レベルのログが出力されました。
8	停止レベルのログが出力されました。
16	ユーザにより処理はキャンセルされました。※

※バッチ実行をタスクトレイからキャンセルできるプロダクトのみ返します。

リターンコードをサポートするプログラム一覧

プロダクト	プログラム	リターンコードのサポート
CS シリーズ	CS (CS-MAGIC、CS-REPORT、CS-ADVISOR、CS-Network ADVISOR)	○
CS シリーズ	Flatfile Maintenance	○
CS シリーズ	Flatfile Maintenance - データ管理	○
CS シリーズ	pdbmagic	○
CS シリーズ	pdbmagic2	○
CS シリーズ	SAP magic	○
CS シリーズ	udbmagic	○
CS シリーズ	x2f	○
CS シリーズ	Packet Monitor (wmonpost)	○
CS シリーズ	MIB Collector	×
CS シリーズ	HTTP Log Processor (log2f)	○
CS シリーズ	CS-Java	×
CS シリーズ	CS-CONNECT	○
CS シリーズ	CS-VMware	×
CS シリーズ	CS-Hyper-V	×
CS シリーズ	CS-Virtage	×
CS シリーズ	iim collect	○
CS シリーズ	iim clock server	×
CS シリーズ	CS-RMON ※	○
CS シリーズ	ES/1 管理マシン ディスクチェック	×
CS シリーズ	CS-Storage	×
CS シリーズ	CS-AWS	×
CS シリーズ	APM Collector ※	×
MF シリーズ	Performance Navigator	○
MF シリーズ	ES/1 Web	×
MF シリーズ	MF-CONNECT	○
LOG	Log Utility	○
PWS	Performance Web Service Uploader	○
PWS	Performance Web Service Maintenance	○

※2022 年 1 月 31 日にてサポートを終了しました。